

# システムの

Basic Input Output System(BIOS)の設定方法について説明します。

Express5800/ftサーバを導入したときやオプションの増設/取り外しをするときはここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

# システムBIOS ~SETUP~

SETUPはExpress5800/ftサーバの基本ハードウェアの設定を行うためのユーティリティツールです。このユーティリティはExpress5800/ftサーバ内のフラッシュメモリに標準でインストールされているため、 専用のユーティリティなどがなくても実行できます。

SETUPで設定される内容は、出荷時にExpress5800/ftサーバにとって最も標準で最適な状態に設定していますのでほとんどの場合においてSETUPを使用する必要はありません。

- ┏━〇 SETUPの操作は、システム管理者(アドミニストレータ)が行ってください。
- OS(オペレーティングシステム)をインストールする前にパスワードを設定しないでく ださい。
  - Express5800/ftサーバには、最新のバージョンのSETUPユーティリティがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。

# 起 動

Express5800/ftサーバの電源をONにするとディスプレイの画面にPOST (Power On Self-Test)の実行内容が表示されます。「NEC」ロゴが表示された場合は、<Esc>キーを押してください。

しばらくすると、起動を促すメッセージが画面左下に表示されます。メッセージはSETUP の設定によって次のような表示をします。

Press <F2> to enter SETUP

起動メッセージが表示されたところで<F2>キーを押すと、SETUPが起動してMainメニュー 画面を表示します。

以前にSETUPを起動してパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する画面が 表示されます。パスワードを入力してください。

Enter password:[ ]

パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも誤ったパスワードを入力すると、 Express5800/ftサーバは動作を停止します(これより先の操作を行えません)。電源をOFF にしてください。

# キーと画面の説明

キーボード上の次のキーを使ってSETUPを操作します(キーの機能については、画面下にも 表示されています)。



カーソルキー(↑、↓)	画面に表示されている項目を選択します。文字の表示が反転している項目が現在選択さ
	れています。
カーソルキー(←、→)	MainやAdvanced、Stratus、Security、Boot、Exitなどのメニューを選択します。
<->+-/<+>+-	選択している項目の値(パラメータ)を変更します。サブメニュー(項目の前に「▶」がつ
	いているもの)を選択している場合、このキーは無効です。
<enter>+—</enter>	選択したパラメータの決定を行うときに押します。
<esc>+-</esc>	ひとつ前の画面に戻ります。
<f1>+-</f1>	SETUPの操作でわからないことがあったときはこのキーを押してください。SETUPの
	操作についてのヘルプ画面が表示されます。 <esc>キーを押すと、元の画面に戻りま</esc>
	す。
<f9>=</f9>	現在表示している項目のパラメータをデフォルトのパラメータに戻します(出荷時の設定
	と異なる場合があります)。
<f10>+-</f10>	現在の設定値を保存し、メニューを終了します。

# パラメータと説明

SETUPには大きく6種類のメニューがあります。

- Mainメニュー
- Advancedメニュー
- Stratusメニュー
- Securityメニュー
- Bootメニュー
- Exitメニュー

このメニューの中からサブメニューを選択することによって、さらに詳細な機能の設定がで きます。次に画面に表示されるメニュー別に設定できる機能やパラメータ、出荷時の設定を 説明します。

### Main

SETUPを起動すると、はじめにMainメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
				Item Specific H	lelp
System Time :		[ <u>15</u> :23	:34]		
System Date :		[01/30	/2004]	<tab> <shift-tab></shift-tab></tab>	
D: 14		00.0		or Enters selects	
Primary Maste	ſ	CD-R0	MC III	field	
Primary Slave		AIRP	I Removable	noid.	
Keyboard Fea	tures				
o		570 1/	5		
System Memo	iry :	576 K	В		
Extended Men	nory :	20471	NB		
Boot-time Diag	gnostic Screen :	[Disab	led]		
Summary scre	en:	[Disab	led]		

# システムのコンフィグレーション

Mainメニューの画面上で設定できる項目とその機能を示します。

項目	パラメータ	説明
System Time	HH:MM:SS	時刻の設定をします。
System Date	MM/DD/YYYY	日付の設定をします。
Primary Master	_	IDE(プライマリのマスタ)に接続しているデバイ スのタイプを表示します(表示のみ)。
Primary Slave	_	IDE(プライマリのセカンダリ)に接続しているデ バイスのタイプを表示します(表示のみ)。
System Memory	_	システム起動中に検出された標準メモリ量を表示 します(表示のみ)。
Extended Memory	_	システム起動中に検出された拡張メモリ量を表示 します(表示のみ)。
Boot-time Diagnostic Screen	[Disabled] Enabled	起動時の自己診断画面を表示するかどうかを設定 します。
Summary screen	[Disabled] Enabled	システム起動中に検出されたシステムデバイスの 表示を制御します。

[ ]: 出荷時の設定



次の条件に当てはまる場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。 - 装置の輸送後

- 装置の保管後
- 装置の動作を保証する環境条件(温度:10℃~35℃・湿度:20%~80%)から外れた
   条件下で休止状態にした後

システム時計は毎月1回程度の頻度で確認してください。また、時刻に関して高い精度を要 求するようなシステムに組み込む場合は、タイムサーバ(NTPサーバ)などを利用して運用 することをお勧めします。

システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。

Keyboard Featuresサブメニューは、Mainメニューからアクセスできます。 Keyboard Featuresメニューを選択して、<Enter>キーを押すとサブメニューが表示され ます。

### **Keyboard Features**

Mainメニューで「Keyboard Features」を選択すると、次の画面が表示されます。

			Phoenix BIOS	Setup Utility		
_	Main					
ſ		Keybo	ard Features		Item Specific Help	
	NumLock : Keyboard Auto- Keyboard Auto-	repeat Rate : repeat Delay :	[Auto] [2/ sec] [0.5 sec]		Selects Power-on State for NumLock	
	F1 Help ↑ Esc Exit ←	↓ Select Item → Select Menu	-/+ Change Enter Select	Values ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

各項目については次の表を参照してください。

項目	パラメータ	説明
NumLock	[Auto] On Off	システム起動時にNumLockの有効/無効を設定し ます。「Auto」では、テンキーからの入力を検出 したときに有効にします。
Keyboard Auto- repeat Rate	10/sec 6/sec [2/sec]	キーリピート時、1秒間に出力される文字数を設定 します。
Keyboard Auto- repeat Delay	0.25sec [0.5sec] 0.75sec 1sec	キーリピートが開始されるまでの時間を設定しま す。

]:出荷時の設定

### Advanced

カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advancedメニューが表示されます。

項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。それぞれのサブメニューを表示させて、サブメニュー上の画面で設定します。

Phoenix BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
Reset Config	juration Data :	[No]		Item Specifi	c Help
<ul> <li>Peripheral C</li> <li>I/O Device C</li> <li>Console Red AC-LINK</li> </ul>	onfiguration onfiguration lirection	[Last State	]	Select 'Yes' if you clear the Extende Configuration Data (ESCD) area	want to d System a.
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Ment	-/+ Change L Enter Select	Values Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

Advancedメニューの画面上で設定できる項目とその機能を示します。

項目	パラメータ	説明
Reset Configuration Data	[No] Yes	Configuration Data(POSTで生成したシステム 情報)をクリアするときは「Yes」に設定しま す。装置の起動後にこのパラメータは「No」に切 り替わります。
AC-LINK	Stay Off [Last State] Power On	AC-LINK機能を設定します。AC電源が再度供給されたときのExpress5800/ftサーバの電源の状態を 設定します。UPS接続する場合は「Power On」 に変更してください。

[ ]:出荷時の設定

### Peripheral Configuration

Advancedメニューで「Peripheral Configuration」を選択すると、次の画面が表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility				
Advanced				
Peripheral Configuration	Item Specific Help			
Serial port A : [Enabled] Base I/O address : Serial Port 1 (3F8h/IRQ4) Serial port B : [Enabled] Base I/O address : Serial Port 2 (2F8h/IRQ3)	Disables serial port A or sets the base address/IRQ of serial port A.			
F1 Help ↑↓ Select Item -/+ Change Values Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults J F10 Previous Values			

項目については次の表を参照してください。

### | **〒●** 割り込みやベースI/Oアドレスが他と重複しないように注意してください。 | **重要**

項目	パラメータ	説明
Serial port A	Disabled [Enabled] Auto	シリアルポートAの無効またはベースア ドレス、および割り込みを設定します。
Base I/O address	Serial Port 1 (3F8h/IRQ4)	「Serial port A」を「Enabled」に設定してい る場合に表示されます。
Serial port B	Disabled [Enabled] Auto	シリアルポートBの無効またはベースア ドレス、および割り込みを設定します。
Base I/O address	Serial Port 2 (2F8h/IRQ3)	「Serial port B」を「Enabled」に設定してい る場合に表示されます。

[ ]: 出荷時の設定

### **Console Redirection**

Advancedメニューで「Console Redirection」を選択すると、次の画面が表示されます。

	Phoenix BIOS Setup Utility	
Advanced		
Console	Redirection	Item Specific Help
Serial Port Address : Baud Rate : Console Type : Flow Control : Console Connection : Continue C.R after POST :	(DISELICE) [9600] [PC ANSI] [None] [Direct] [On]	If enabled, the console will be redirected this port. If Console Redirection is enabled, this address must match the settings of serial port 2.
F1 Help ↑↓ Select Item Esc Exit ←→ Select Menu	-/+ Change Values Enter Select ► Sub-Menu F	F9 Setup Defaults F10 Previous Values

各項目については次の表を参照してください。

項目	パラメータ	説明
Serial Port Address	[Disabled] On-board COM B	HWコンソールを接続するシリアルポートを設定します。 「On-board COM B」を設定すると「Boot-time Diagnostic Screen」が「Enabled」になります。
Baud Rate	(9600) 19.2K 57.6K 115.2K	接続するHWコンソールとのインタフェースに使用 するボーレートを設定します。
Console Type	VT 100 VT 100, 8bit PC ANSI, 7bit [PC ANSI] VT 100+ VT-UTFS	HWコンソールタイプを設定します。
Flow Control	[None] XON/XOFF	フロー制御の方法を設定します。
Console Connection	[Direct] Via modem	HWコンソールとの接続方法を設定します。
Continue C.R after POST	Off [On]	オペレーティングシステムをロードした後に、コ ンソールリダイレクションを有効にするか、無効 にするか設定します。

[ ]:出荷時の設定

### Stratus

カーソルを「Stratus」の位置に移動させると、Stratusメニューが表示されます。

下図に示すStratusメニューの画面上では設定できる項目はありません。それぞれのサブメ ニューを表示させて、サブメニュー上の画面で設定します。メニューを選択して、<Enter> キーを押すとサブメニューが表示されます。

Phoenix BIOS Setup Utility						
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit	
<ul> <li>ftMemory</li> <li>Monitoring</li> <li>PCI OPRC</li> </ul>	Configuration M hot key setup			Item Specific I ftMemory configuration	leip	
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Menu	-/+ Chan Enter Select	ge Values ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values		

### ftMemory

-0

重要

Stratusメニューで「ftMemory」を選択すると、次の画面が表示されます。

Γ			Phoenix BIOS	Setup Utility		
		Stratu	IS			
l		ftMe	mory		Item Specific Help	]
	Size: Start Address :	[ <b></b> ]	000h		Select Size in MB for ftMemory	
	F1 Help ↑↓ Esc Exit ←→	Select Item Select Menu	-/+ Change Enter Select	Values Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

### 項目については次の表を参照してください。

項目	パラメータ	説明
Size	[0]	ftMemory容量のサイズを設定します。
Start Address	-	ftMemoryのスタートアドレスを表示します。 (表示のみ)。

● ft Memory機能を使用しない時は、出荷時設定のままご使用ください。

● ft Memory機能を使用する時は、別途「ft Memory RAM Disk」が必要となります。

- ft Memory容量は、このメニューでは設定/変更せず、必ず「ft Memory RAM Disk」 での設定が自動的に反映されます。
- ft Memory機能の詳細は、「ft Memory RAM Disk」に添付の説明書等を参照してく ださい。

### Monitoring Configuration

Stratusメニューで「Monitoring Configuration」を選択すると、次の画面が表示されます。

		Phoenix BIOS Setup Utility	
_	Stratu	s	
	Monitoring Configu	ration	Item Specific Help
	Option ROM Scan Monitoring: Option ROM Monitoring Time-out: Boot Monitoring: Boot Monitoring Time-out Period: POST Pause Monitoring: POST Pause Monitoring Time-out:	[Enabled] [5] [Enabled] [8] [Enabled] [3]	Disables/enables the Option ROM Scan Monitoring features
	F1     Help     ↑ ↓     Select Item       Esc Exit     ←→     Select Menu	-/+ Change Values Enter Select ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values

「 Option ROM Scan Monitoring、Boot Monitoring、POST Pause Monitoringを「Enabled」にしたときのみ表示する

項目については次の表を参照してください。

項目	パラメータ	説明
Option ROM Scan Monitoring	Disabled [Enabled]	オプションROMスキャンを監視する機能の 有効/無効を設定します。
Option ROM Monitoring Time-out	1~[5]~20	オプションROMスキャン時のタイムアウト を設定します。「Option ROM Scan Monitoring」を「Enabled」に設定したときに 表示されます。
Boot Monitoring	Disabled [Enabled]	起動時の監視機能の有効/無効を設定しま す。Express5800/ftサーパ特有の機能で、 OSが起動するまでの障害を検出し、障害検 出時は速やかに再起動します(詳しくは2章 「エラー発生時の動作」参照)。ESMPRO/ ServerAgentがインストールされたOSでの 運用中は「Enabled」で使用してください。 ESMPRO/ServerAgentをインストールして いないOSからの起動またはOSのインストー ル時は「起動時のタイムアウト設定」時間後に 再起動してしまうため、この機能を使用しな いでください。
Boot Monitoring Time-out Period	1~[10]~20	起動時のタイムアウトを設定します。「Boot Monitoring」を「Enabled」に設定したときに 設定できます。
POST Pause Monitoring	Disabled [Enabled]	起動抑止中のPOST監視機能の有効/無効 を設定します。
POST Pause Monitoring Time-out	1~[3]~20	起動抑止中のPOST監視時間を設定します。

[ ]: 出荷時の設定



### PCI OPROM hot key setup

Stratusメニューで「PCI OPROM hot key setup」を選択すると、次の画面が表示されます。

		Phoenix BIOS Setup Utility	
	S	tratus	
	PCI OPR	OM hot key setup	Item Specific Help
Hot key 0	- control key type : - + key required :	[ <alt>] [Q]</alt>	Select hot key control type :
Hot key 1	- control key type : - + key required :	[ <ctrl>] [S]</ctrl>	[Disabled] Hot key disabled
Hot key 2	- control key type :	[Disabled]	[Alt] <ait +="" key=""> required</ait>
Hot key 3	- control key type :	[Disabled]	[Ctrl] <ctrl +="" key=""> required</ctrl>
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Menu	-/+ Change Values Enter Select ► Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values

### 各項目については次の表を参照してください。

項目	パラメータ	説明
Hot key 0 - control key type	Disabled [ <alt>] <ctrl> <alt ctrl="" or=""></alt></ctrl></alt>	ホットキーを設定します。
- +key required	[Q]	
Hot key 1 - control key type	Disabled <alt> [<ctrl>] <alt ctrl="" or=""></alt></ctrl></alt>	
- +key required	[S]	
Hot key 2 - control key type	[Disabled] <alt> <ctrl> <alt ctrl="" or=""></alt></ctrl></alt>	
Hot key 3 - control key type	[Disabled] <alt> <ctrl> <alt ctrl="" or=""></alt></ctrl></alt>	

[ ]:出荷時の設定

### Security

カーソルを「Security」の位置に移動させると、Securityメニューが表示されます。

		Phoenix BIOS Setu	ıp Utility		
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
Set Supervi Password c Diskette acr Power Swit	sor Password in boot : cess : ch Mask	(Enter) [Disabled] [Supervisor] [Unmasked]		Item Specific Supervisor Passw controls access to setup utility.	c Help vord o the
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Menu	-/+ Change Valu Enter Select ►	es Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	

Set Supervisor Passwordで<Enter>キーを押すと、次のような画面が表示されます。

ここでパスワードの設定を行います。パスワードは7文字以内の英数字、および記号でキー ボードから直接入力します。

	Phoenix BIOS Setu	p Utility	
Main Advanced	Stratus	Security	Boot Exit
Set Supervisor Password			Item Specific Help
Password on boot : Diskette access : Power Switch Mask	[Disabled] [Supervisor]		Supervisor Password controls access to the setup utility.
	Set Supervisor F	assword	
	Enter new password : Confirm new password :	[ ]	
F1 Help ↑↓ Select Item Esc Exit ←→ Select Menu	-/+ Change Value Enter Select ►	es F Sub-Menu F	9 Setup Defaults 10 Previous Values



OSのインストール前にパスワードを設定しないでください。

各項目については次の表を参照してください。

項目	パラメータ	説明		
Set Supervisor Password	7文字までの英数字	<enter>キーを押すとスーパバイザのパスワード 入力画面になります。このパスワードはすべて のSETUPメニューにアクセスできます。この設定 は、SETUPを起動したときのパスワードの入力で 「Supervisor」でログインしたときのみ設定でき ます。</enter>		
Password on boot [Disabled] Enabled		起動時にパスワードの入力を行う/行わないの設 定をします。先にスーパバイザのパスワードを設 定する必要があります。もし、スーパバイザのパ スワードが設定されていて、このオプションが無 効の場合はBIOSはユーザーが起動していると判断 します。		
Diskette access	Everyone [Supervisor]	BIOSがフロッピーディスクへのアクセスを可能に するときのパスワード・プロンプトを使用可能ま たは使用不可にします。		
Power Switch Mask	Masked [Unmasked]	POWERスイッチの機能の有効/無効を設定しま す。「Masked」に設定すると、OSの起動後 はPOWERスイッチで電源をOFFできなくなりま す。(強制シャットダウン(POWERスイッチを4 秒以上押して強制的にシャットダウンさせる機 能)も含む。)		

[ ]: 出荷時の設定

### Boot

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、Bootメニューが表示されます。 Express5800/ftサーバは起動時にこのメニューで設定した順番にデバイスをサーチし、起 動ソフトウェアを見つけるとそのソフトウェアで起動します。

	Phoenix BIC	OS Setup Utility		
Main Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit
CD-ROM Drive + Removable Devices Hard Drive Network(IBA FE Slot 0130 v 411	0)		Item Specif Key used to view, configure devices <enter> expands a + or - <ctrl +="" enter=""> ex all <shift +="" 1=""> enab disables a device &lt;+&gt; and &lt;&gt; mov device up or dow</shift></ctrl></enter>	ic Help / or s: s with cpands les or yes the m.
F1 Help	-/+ Chang Enter Select	ge Values ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values	S

<↑>キー/<↓>キー、<+>キー/<->キーでブートデバイスの優先順位を変更できます。 各デバイスの位置へ<↑>キー/<↓>キーで移動させ、<+>キー/<->キーで優先順位を変 更できます。

■ EXPRESSBUILDERを起動する場合は、上図に示す順番に設定してください。 ■ 重要 カーソルをExitの位置に移動させると、Exitメニューが表示されます。

	Phoenix BIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Stratus	Security	Boot	Exit	
Save Chan Exit Withou Get Default Load Previc Save Chan	ges & Exit t Saving Changes Value pus Value ges			Item Specific Exit System Setup save your changes CMOS.	Help and to	
F1 Help Esc Exit	↑↓ Select Item ←→ Select Menu	-/+ Chang Enter Select	e Values ▶ Sub-Menu	F9 Setup Defaults F10 Previous Values		

このメニューの各オプションについて以下に説明します。

### Save Changes & Exit

新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存して SETUPを終わらせる時に、この項目を選択しま す。Save Changes & Exitを選択すると、右の画 面が表示されます。

ここで、「Yes」を選択し<Enter>キーを押すと新 たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存して SETUPを終了し、Express5800/ftサーバは自動 的にシステムを再起動します。

キャンセルしたい場合には、<Esc>キーを押します。

### Exit Without Saving Changes

新たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存しな いでSETUPを終わらせたい時に、この項目を選択 します。

ここで、「No」を選択し<Enter>キーを押すと、変 更した内容を保存しないでSETUPを終わらせるこ とができます。「Yes」を選択し<Enter>キーを押 すと変更した内容をCMOSメモリ内に保存して SETUPを終了し、Express5800/ftサーパは自動 的にシステムを再起動します。

キャンセルしたい場合には、<Esc>キーを押します。



Setup Warning! Configuration has not been saved! Save before exiting? [Yes] [No]

### Get Default Value

SETUPのすべての値をデフォルト値に戻したい時 に、この項目を選択します。Get Default Valueを 選択すると、右の画面が表示されます。 ここで、「Yes」を選択し<Enter>キーを押すと、 デフォルト値に戻ります。「No」を選択し<Enter> キーを押すとExitメニューの画面に戻ります。 キャンセルしたい場合には、<Esc>キーを押しま す。

Setup Confirmation!					
Load default configuration now?					
[Yes]	[No]				



### Load Previous Value

CMOSメモリに値を保存する前に今回の変更を以前の値に戻したい場合は、この項目を選択します。Load Previous Valueを選択すると右の画面が表示されます。

ここで、「Yes」を選択し<Enter>キーを押すと新たに選択した内容が破棄されて、以前の内容に戻ります。

キャンセルしたい場合には、<Esc>キーを押します。

Setup Conf	firmation!
Load previous configuration now?	
[Yes]	[No]

### Save Changes

SETUPを終了せず、新たに選択した内容を CMOSメモリ内に保存する時に、この項目を選択 します。Save Changesを選択すると、右の画面 が表示されます。

ここで、「Yes」を選択し<Enter>キーを押すと新 たに選択した内容をCMOSメモリ内に保存しま す。

キャンセルしたい場合には、<Esc>キーを押します。

Setup Con	firmation!
Save configuration	on changes now?
[Yes]	[No]

# SCSI BIOS ~ Fast!UTIL ~

本装置のSCSIコントローラに対する各種設定はSCSI BIOSユーティリティ「Fast!UTIL」を使用します。 SCSI BIOSユーティリティの起動は特殊な起動ディスクなどを使用せずに、POSTの実行中に簡単なキー 操作から起動することができます。

Express5800/ftサーバ内蔵のSCSI BIOSの設定は、出荷時に最適な設定にしているので、このユーティリティを使用して設定を変更する必要は特にありません。

- 内蔵ハードディスクドライブを接続しているSCSIコントローラに対する設定は出荷時の設定のままにしておいてください。 なお、SCSIコントローラの設定は、片系ずつ設定が必要です。
  - Express5800/ftサーバには、最新のバージョンのFast!UTILがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。本書と異なる設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。

## 起 動

Fast!UTILの起動方法を次に示します。

### 注意事項

FastIUTILを起動する前に次の点について注意してください。

● 内蔵ハードディスクドライブ用の設定について

内蔵ハードディスクドライブ用の設定は、出荷時のままにしてください。内蔵用のホストアダプタはアダプタの選択(Select Host Adapter)で「QLA12160 Ultra3 2400」と表示されます。

- 各グループに搭載した内蔵SCSIコントローラの設定について
  - 設定を確認したい内蔵SCSIコントローラを搭載しているPCIモジュールのみを本装 置に取り付けてからFast!UTILを起動して設定してください。もう一方のPCIモ ジュールは本装置から取り外しておいてください。
  - 内蔵SCSIコントローラの設定は出荷時のままにしてください。
  - テープデバイスなどの説明書によっては、ホストアダプタのSCSI BIOSを設定しなければならないような記述がありますが、本装置では設定を変更する必要はありません。設定は変更しないでください。

### 起動方法

次の手順に従って起動します。

- Express5800/ftサーバの電源をONにする。
   POST実行中の画面の途中で起動メッセージを表示します。
- 2. <Ctrl>キーを押しながら<Q>キーを押す。

Fast!UTILが起動します。

### **₩**O III

「QLogic Adapter using IRQ number x」以降の表示がでる前にキーを押してください。

QLogic Corporation QLA 1216x PCI SCSI ROM BIOS Version X.XX SV ID 159C Copyright (C) QLogic Corporation 1993-2001. All rights reserved. www.qlogic.com

Press <Ctrl-Q> for Fast!UTII

ISP12160 Firmware Version xx.xx.xx <CTRL-Q> Detected, Initialization in progress, Please wait... QLogic adapter using IRQ number X

3. カーソルキーを使って「Select Host Adapter」をハイライトさせて<Enter>キーを押す。



4. アダプタを選択する。

### |┳-0重要

「QLA12160 Ultra3 2400」は、内蔵ハードディスクドライブ用のアダプタです。

カーソルキーを使って表示された項目をハイライトさせて<Enter>キーを押してください。

Select Host Adapter	
Adapter Type	I/O Address
QLA12160 Ultra 3	2400

「Fast!UTIL Options」に戻ります。画面の左上には、選択したホストアダプタ名が表示されます。



# **Configuration Settings**

「Fast!UTIL Options」メニューから「Configuration Settings」を選択するとコンフィグレーションを設定する画面が表示されます。



### Host Adapter Settings

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「Host Adapter Settings」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すとホストアダプタに関 する設定画面が表示されます。

それぞれのパラメータと出荷時の設定は次の表のとおりです。

項目	パラメータ	説明
BIOS Address	_	表示のみ
BIOS Revision	_	表示のみ
Interrupt level	_	表示のみ
Host Adapter BIOS	[Enabled] Disabled	ホストアダプタのBIOSの展開を有効にするか無 効にするかを設定します。
PCI Bus DMA Burst	[Enabled] Disabled	PCIパスでのDMAパースト転送を有効にするか 無効にするかを設定します。
CDROM Boot	Enabled [Disabled]	CD-ROMからの起動を有効にするか無効にする かを設定します。
Adapter Configuration	(Auto) Manual Safe	アダプタのコンフィグレーションをBIOSによる 自動設定するか、マニュアルで設定するかSafe に設定するかを選択します。
Drivers Load RISC code	[Enabled] Disabled	RISCコードのロードを有効にするか無効にする かを設定します。
>4GByte Addressing	Enabled [Disabled]	BIOSレベルで4GB以上のハードディスクドラ イブを使用するかどうかを設定します。
Fast Command Porting	[Enabled] Disabled	出荷時の設定のままにしておいてください。

[]: 出荷時の設定

### **SCSI Device Settings**

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「SCSI Device Settings」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すとホストアダプタに接続 しているデバイスに関する設定をする画面が表示されます。 それぞれのパラメータと出荷時の設定は次の表のとおりです。



設定はSCSIバス単位に行えます。出荷時の設定はSCSI Bus 0、SCSI Bus 1とも同じ
 です。

項目	パラメータ	説明
Disconnects OK	[Yes] No*	SCSI機器をSCSIバスから切り離すことを許 可するか、禁止するかを設定します。 *SCSIID8は「No」に設定してください。
Check Parity	[Yes] No	パリティチェックをするかどうかを設定し ます。
Enable LUNs	[Yes] No	SCSI IDに対して複数のLUN番号を持たせる かどうかを設定します。
Enable PPR	Yes [No]	出荷時の設定のままにしておいてください。
Enable Device	[Yes] No	出荷時の設定のままにしておいてください。
Negotiate Wide	[Yes] No *	Wide (32ビット)転送を許可するか、禁止す るかを設定します。 * SCSI ID8は「No」に設定してください。
Negotiate Sync	[Yes] No *	同期転送を許可するか、禁止するかを設定 します。 * SCSI ID8は「No」に設定してください。
Tagged Queuing	[Yes] No *	出荷時の設定のままにしておいてください。 *SCSI ID8は「No」に設定してください。
Sync Offset	00, 02, 04, 06, 08, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, [24]	同期転送でのオフセット値を選択します。
Sync Period	[Ultra3 9 = 160MB/s] Ultra2 10 = 80MB/s Ultra 12 = 40MB/s Fast 25 = 20MB/s 40 = 12.5MB/s	同期転送速度を選択します。
Exec Throttle	1, 4, 8, [16], 32, 64, 128, 255	出荷時の設定のままにしておいてください。

[ ]: 出荷時の設定

### SCSI Bus Settings

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「SCSI Bus Settings」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すと選択したホストアダプタ のSCSIパスに関する設定をする画面が表示されます。 それぞれのパラメータと出荷時の設定は次の表のとおりです。

|<mark>∎−</mark>0

● 設定はSCSIバス単位に行えます。出荷時の設定はSCSI Bus 0、SCSI Bus 1とも同じ 要 です。

項目	パラメータ	説明
SCSI Bus SCSI ID	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, [7], 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15	SCSIバスに与えるSCSI IDを選択します。
SCSI Bus Reset	[Enabled] Disabled	SCSIバス単位でのリセットの有効/無効を 選択します。
SCSI Bus Reset Delay	0, 1, 2, 3, 4, [5], 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15	出荷時の設定のままにしておいてくださ い。
SCSI Bus Termination	Auto High only Disabled [Enabled]	SCSIバスの終端抵抗を設定します。

[ ]: 出荷時の設定

### Autoconfigure SCSI Devices

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「Autoconfigure SCSI Device」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すとホストアダプタ に接続しているデバイスに関する設定をする画面が表示されます。 それぞれのパラメータと出荷時の設定は「SCSI Device Setting」で示す表と同じです。



- 設定はSCSIバス単位、およびSCSI ID単位に行えます。ターゲットとなる装置の SCSI IDを確認してから設定を変更してください。
  - 出荷時の設定はSCSI Bus 0、SCSI Bus 1とも同じです。
  - 次の項目は、「Host Adapter Settings」の「Adapter Configuration」を「Manual」 にすることで変更できます。
    - Enable Device
    - Enable LUNs
    - Negotiate Wide
    - Negotiate Sync
    - Tagged Queuing
    - Sync Offset
    - Sync Period
    - Exec Throttle

### Selectable Boot Settings

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「Selectable Boot Settings」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すと選択したホストア ダプタに接続したデバイスからの起動に関する設定をする画面が表示されます。

項目	パラメータ	説明
Selectable SCSI Boot	Enabled [Disabled]	SCSI機器からの起動を選択できるか、でき ないようにするかを設定します。
SCSI Bus	(0) 1	起動するSCSI機器が接続されているバスを 選択します。
SCSI Boot ID	[0], 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15	起動するSCSI機器のSCSI IDを設定しま す。
SCSI Boot Lun	[0], 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15	起動するSCSI機器がパインドされてい るLUN番号を選択します。

[ ]: 出荷時の設定

### **Restore Default Adapter Settings**

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「Restore Default Adapter Settings」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すと設定値を デフォルト値に戻す画面に切り替わります。

### **★**● デフォルト値のリストアは各SCSIバス単位に行えます。 重要

### Raw Nvram Data

「Configuration Settings」メニューから、キーボードのカーソル(<↓>キー/<↑>キー)で 「Raw Nvram Data」にカーソルを合わせて<Enter>キーを押すとホストアダプタに搭載して いるNvRAMの内容を16進数形式で表示します。

この機能はトラブルを解決するためのツールです。データを編集することはできません。

# Scan SCSI Bus

「Fast!UTIL Options」メニューから「Scan SCSI Bus」を選択すると各SCSIバスに接続されているデバイスの一覧をSCSI ID順に表示します。表示される内容は、デバイスの製造メーカー名、製品名、ファームウェアレビジョンです。

# SCSI Disk Utility

「FastIUTIL Options」メニューから「SCSI Disk Utility」を選択すると接続しているSCSIデバ イスのフォーマットやベリファイをするユーティリティメニューが表示されます。



- デバイスはSCSIバス単位、およびSCSI ID単位に行えます。選択したバスやIDを間違 えないよう注意してください。
- Low-Level Formatを行う際は、BIOSセットアップユーティリティの[Stratus]→ [Monitoring Configuration]→ [Option ROM Scan Monitoring]を[Disabled] に設定してください。設定方法の詳細については、4章の「システムBIOS」を参照して ください。
  - 「Low-Level Format」で「Continue With Format」を選択するとディスク内のすべてのデータを失います。

### Low-Level Format

「Continue With Format」で選択したデバイスを物理フォーマットします。(フォーマット実行前にはBIOSの設定を変更する必要があります。上記「重要」をお読み下さい。) 「Do Not Format Disk」を選択すると1つ前のメニューに戻ります。

### Verify Disk Media

「Continue With Verify」で選択したデバイスに対してベリファイを実行します。「Do Not Verify Media」を選択すると1つ前のメニューに戻ります。

• Select Different Disk

同一SCSIバス上の別のSCSIデバイスを選択します。

# **Select Host Adapter**

「Fast!UTIL Options」メニューから「Select Host Adapter」を選択すると本体に搭載しているホストアダプタのリストを表示します。リストから設定を変更したアダプタを選択してください。



「QLA12160 Ultra3 2400」は、内蔵ハードディスクドライブ用のアダプタです。

接続しているSCSIデバイスのフォーマットやベリファイをするユーティリティメニューが 表示されます。

# Exit Fast!UTIL ~Fast!UTILの終了と保存~

それぞれの設定を変更後、<Esc>キーを何度か押すと「Fast!UTIL Option」メニューが表示されます。メニューから「Exit Fast!UTIL」を選択するとFast!UTILを終了する画面が表示されます。

ただし、起動前と設定内容が異なる場合は、終了する画面を表示する前に設定内容の保存を 確認する画面が表示されます。



カーソル(<↓>キー/<↑>キー)で保存(Save Changes)、または保存しない(Do not save changes)を選択して<Enter>キーを押してください。

<Enter>キーを押すとFast!UTILを終了する画面が表示されます。



カーソル(<↓>キー/<↑>キー)で終了(Reboot System)または終了しない(Return to Fast! UTIL)を選択して<Enter>キーを押してください。

# オプションSCSI機器用設定リスト

オプションSCSI機器を増設するときは、内蔵SCSIコントローラの出荷時の設定のまま使用 してください。

本装置に最適なオプションSCSI機器についてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

# リセットと強制終了

Express5800/ftサーバが動作しなくなったときやBIOSで設定した内容を出荷時の設定に戻すときに参照 してください。

# リセット

OSが起動する前にExpress5800/ftサーバが動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら、<Delete>キーを押してください。Express5800/ftサーバがリセットされます。



リセットは、Express5800/ftサーバのDIMM内のメモリや処理中のデータをすべてクリ アしてしまいます。ハングアップしたとき以外でリセットを行うときは、Express5800/ ftサーバがなにも処理していないことを確認してください。

# 強制シャットダウン

OSからExpress5800/ftサーバをシャット ダウンできなくなったときや、POWERス イッチを押しても電源をOFFにできなく なったとき、リセットが機能しないときな どは、POWERスイッチを4秒以上押し続け てください。電源が強制的にOFFになりま す。

(電源を再びONにするときは、電源OFF(強 制シャットダウン)から約30秒ほど待って から電源をONにしてください。)



リモートパワーオン機能を使用して いる場合は、一度、電源をONにし 直して、OSを起動させ、正常な方 法で電源をOFFにしてください。



# CMOS・パスワードのクリア

Express5800/ftサーバ自身が持つセットアップユーティリティ「SETUP」では、 Express5800/ftサーバ内部のデータを第三者から保護するために独自のパスワードを設定 することができます。

万一、パスワードを忘れてしまったときなどは、パスワードをクリアすることができます。 また、Express5800/ftサーバのCMOSに保存されている内容をクリアする場合も同様の手順で行います。

- CMOSの内容をクリアするとSETUPの設定内容がすべて出荷時の設定に戻ります。
- CMOSの内容やパスワードをクリアするには、Express5800/ftサーバを停止し、電源をOFFにしなければなりません。
  - CMOS・パスワードのクリアは、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に 行わせるようお勧めします。

$\sim$ Memo $\sim$